2019年8月20日

令和元年度　静岡県高等学校図書館研究大会（第一分科会）

いまこそつけたい探究力
―大学・高校の現場から―

信州大学附属図書館
管理課長／副館長（事務担当）
森　いづみ
mori_izumi@shinshu-u.ac.jp

写真：信州大学附属図書館（左から中央図書館、教育学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部の各図書館）

第一分科会「いまこそつけたい探究力」のねらい

- ねらい
  - ✓ 「探究力」とはなんぞや？

高等学校において求められている「探究力」の育成と、学校図書館に求められていることを、整理します。

  - ✓ 「実践力」に結びつけるには？

本日の研修自体、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れます。「探究力」や「情報リテラシー教育」について、大学・高校の取組を知り、実践的なワークを体験し、今後の取組につなげます。

明日から早速「やってみよう！」というお土産を一人一人に持ち帰っていただくことが目標！

アクティブ・ラーニングの技法例

- 反転授業（Flipped Classroom）　→事前課題として取り入れる
  - ✓ 「知識の伝達」はなるべく事前に行い、授業（集合研修）では、一人ではできないインタラクティブな（双方向性のある）活動を多く取り入れる。
- ペアワーク（Think-Pair-Share）　→レクチャーの中で取り入れる
  - ✓ 自分で考える→隣の人と意見交換する→全体で共有する
- ジグゾー法（Jigsaw Method）　→ワークの中で取り入れる
  - ✓ あるテーマについて複数の視点で書かれた資料をグループで分けて読み、自分なりに納得できた範囲でメンバーに説明し合う。
  - ✓ 交換した知識を統合してテーマ全体の理解と課題解決に繋げる、協調的な学習法。「個の理解」→「共有化」
- ラウンドロビン（Round Robin）　→ワークの中で取り入れる
  - ✓ グループのメンバーが順にアイデアや意見を述べていく方法。
  - ✓ ブレインストーミングの簡易版で、多くの人と、短時間で意見交換できる。

構成と時間配分（目安）

- 13:30~13:40　自己紹介・趣旨説明
- 13:40~13:50　アイスブレーキング

Hop

研修の始まりは緊張しがち→アイスブレーキングでリラックス
反転授業的に「読めばわかることを聴く」のではなく、顔を合わせているからこそできることをしましょう！

- 13:50~14:30　大学図書館の事例報告
「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

Step

- 14:30~15:10　高校図書館の事例体験
「実践！実践！探究ワーク
～高校図書館からできること～」

Jump

- 15:10~15:30　全体討議・質疑応答

アイスブレーキング

Hop

- 事前課題（指定文献）について
  - ✓ 今回の研修では、反転授業の考え方を取り入れます。
- 予め次の資料を読んできていただきました
  - ✓ 森いづみ，新しい時代にむけた教育改革を図書館は推進できるか：お茶の水女子大学「図書館入試」のチャレンジ．図書館雑誌 Vol.110 no.7 p.416 -417

    http://hdl.handle.net/10083/59986
- 研修に入る前のウォーミングアップとして、「聴く」だけではなく「主体的に取組む」（具体的には、「読む」「考える」「話す」「発表する」）を実践します

実践してみよう：ペアワーク

- お隣どうし二人ペア（または三人）で、自己紹介＋感想を話し合ってください。
  - ✓ 1人1分程度で、自己紹介（所属・名前）と感想を共有してください
    - 感想は、肯定的なもの・否定的なもの、どちらでもOK
    - どちらにも、これからのことを考えるヒントがあります
- 3分後に、いくつかのグループから、シェアした内容を発表していただきます。
- 発表していただいた内容を踏まえ、個、グループ、全体で考えつつ、進めます。

「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

Step

そもそも「探究力」とは何か？なぜ必要とされているのか？

- 平成30年3月に高等学校学習指導要領の改訂が行われました。
- 新学習指導要領は平成34年度から年次進行で実施されます。
- 平成31年度から、一部を移行措置として先行して実施することとなり、「総合的な探究の時間」という授業が始まりました。
- その背景について、文部科学省の報告書や学習指導要領などから読み解いてみましょう

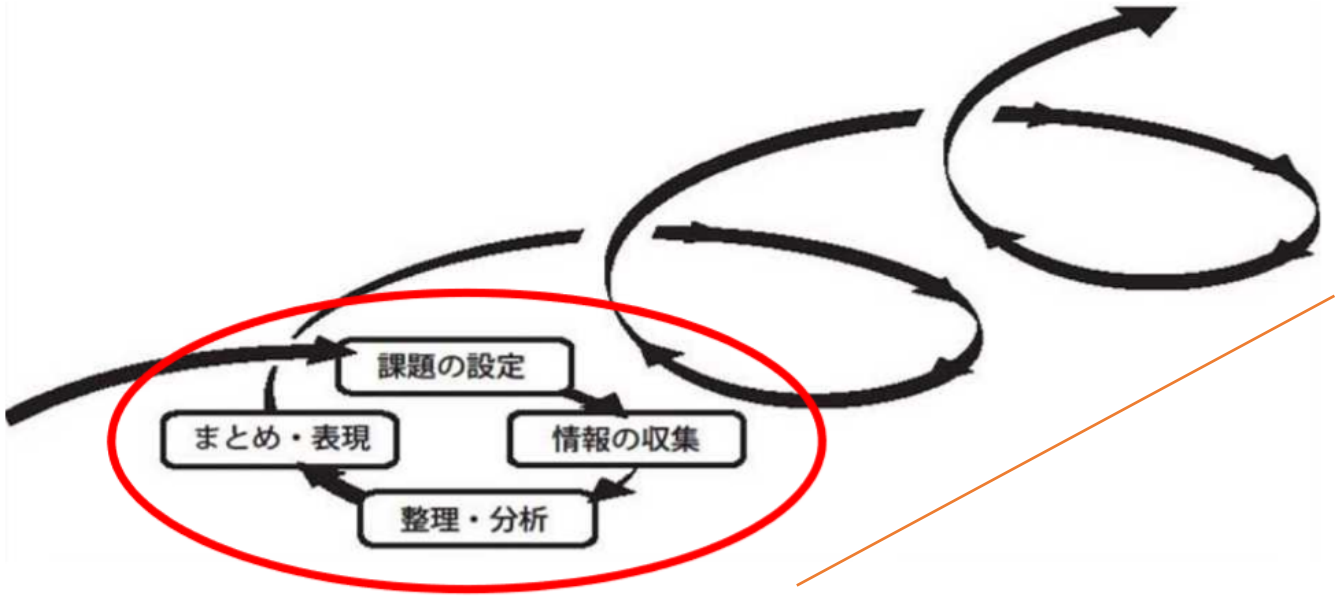
✓ 「総合的な学習の時間 の成果と課題について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2018/10/10/1409925_4.pdf

✓ 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：総合的な探究の時間編
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407196_21_1_1_1.pdf

「探究力」 と「高大接続」：大学の立場から

- 「総合的な学習の時間 の成果と課題について」によると、「探究のプロセス」はこのように図解されています。

探究のプロセス



① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理･分析
④ まとめ･表現

■ 日常生活や社会に目を向け，児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され，探究の過程が繰り返される

「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

- 「探究のプロセス」（① 課題の設定 ② 情報の収集③ 整理・分析④ まとめ・表現をこなすことができる力＝「探求力」）は「情報リテラシー」とほぼ同義です（※1）。
- 「情報リテラシー」とは、「何らかの問題に対処するために、情報の中から必要なものを選び出し、読み解き、問題の解決や新たな情報の創造・発信をする能力」のこと。
- 生徒・学生が「情報リテラシー」を身に付けるため、学校図書館（※2）や大学図書館が果たすべき役割には、大きな期待が寄せられています。

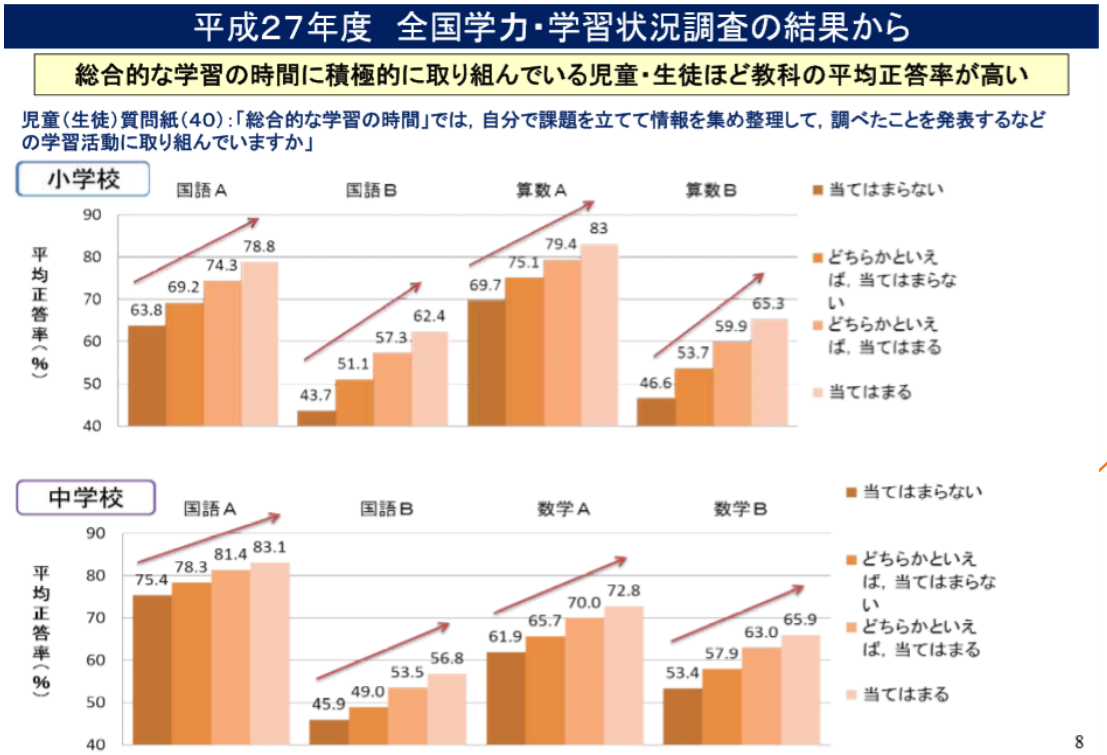
※1　国立大学図書館協会「高等教育のための情報リテラシー基準」2015年

※2　後藤敏行.司書・司書教諭が知っておくべき学校図書館のための情報リテラシー.「図書館教育ニュース」　2019.4~連載

（CiNii Articleで検索すると、日本大学の機関リポジトリで無料公開されている本文へのリンクがあります）

「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

- 「総合的な学習の時間の成果と課題について」によると「自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなど の学習活動」をしているほど、「各教科の平均正答率が高い」という成果が報告されました。



一方、
- 総合的な学習の時間と各教科等との関連が不十分
- 探究のプロセスの中で「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が不十分

といった指摘も。

「探究」をより重視した授業への改革

「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

- 「総合的な探究の時間」学習指導要領（第4節　環境整備）で学校図書館に期待されること

1. 学習空間の確保
2. 学校図書館の整備

　学習の中で疑問が生じたとき，身近なところで必要な情報を収集し活用できる環境を整えておくことは，探究活動に主体的に取り組んだり，学習意欲を高めたりする上で大切な条件。

- ✓ 「読書センター」：生徒の想像力を培い，学習に対する興味・関 心等を呼び起こし，豊かな心や人間性，教養，創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場としての機能
- ✓ 「学習センター」：生徒の自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり，　授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする機能
- ✓ 「情報センター」：生徒や教 職員の情報ニーズに対応したり，生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする機能

3. 情報環境の整備

大学図書館の現場で起こっていること
～ 学習・教育支援の実際 ～

- 大学図書館が大学教育にコミットする背景には、高大接続改革（高校教育改革・大学教育改革・両者をつなぐ入試改革）がある
- 図書館は学習・教育支援として従来からやってきた
  - ✓ 教育内容に関連した蔵書・コンテンツの整備／提供＜情報＞
  - ✓ 授業外の自習場所の提供＜空間＞
  - ✓ レファレンスサービスや、利用者教育の延長としての情報リテラシー教育＜人＞
- 新たに求められていること
  - ✓ ＜情報・空間・人＞という要素は同じ
  - ✓ その中身が変わってきた
  - ✓ どのように変わってきたのか？

新たに求められていること

大学図書館の整備について（審議のまとめ）

ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー（平成22年12月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- **学習支援及び教育活動への直接の関与**
- キーワード：
  - **ラーニングコモンズ**：複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」
  - 図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援。教員や図書館職員だけではなく、大学院生や学部3、4年生などが自身の経験などに基づき下級生を指導する体制を組織化

新たに求められていること

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について

（審議まとめ）（平成25年8月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- キーワード：
  - **学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の三要素**：
    コンテンツ、学習空間、人的支援が改めて定義された
  - **アクティブ・ラーニング（能動的学修）**
    「教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）
    学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換
    「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」
    という文言が盛り込まれた

高大接続システム改革のねらい

高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月）

→大学教育改革、高校教育改革、大学入学者選抜改革の「三位一体の改革」

- 背景
  - 国内外の大きな社会変動（グローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興／生産年齢人口の急減や地方創生への対応など）
  - 「多様な人々と協力し主体性を持って人生を切り開く力」や「知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する資質や能力」が重要である
- まとめ
  - 先行き不透明な社会で生きる人々に不可欠な資質・能力を育成する場である高等学校や大学は、我が国社会の基盤を形成するための公共財
  - 置かれた境遇を問わず、全ての人々が充実した教育を通じて高い資質・能力を身に付け、それぞれの選ぶ道で輝き活躍できる社会の実現
  - 関係者はもちろん広く社会全体で知恵を出し合いながら取り組む必要がある

出典　高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

高大接続システム改革のねらい

高大接続システム改革会議の『最終報告』（平成28年3月）

2021年1月～の
「大学入学共通テスト」にもこうした
考え方が反映される

- 教育改革において身に付けるべき力「学力の３要素」
  1. 十分な知識・技能
  2. それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
  3. これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

アクティブ・ラーニングによって
身に付くことが期待される

教育手法としての
アクティブ・ラーニング型授業

出典　高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

お茶大図書館と入試改革

■お茶の水女子大学の入試改革

- 時期：2017年度入学者を選抜する入試から、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」を開始
- 改革の目的：潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜
- 定員：現AO入試の2倍の20名
- 「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」した，ヴィルヘルム・フォン・フンボルト（ベルリン大学創設者）に因んで命名
- 一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと，二次選考（文系「図書館入試」，理系「実験室入試」）の二段構え
- 単に知識の多寡を問うのではなく，「課題を探求・発見」し，「必要な資料やデータを活用」し，「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

新フンボルト入試（概要）

選考方法

プレゼミナール

◆AO受験生のみならず、高校2年生やAO入試を受験しない3年生、高校教員を受講対象者とする

◆当日授業の受講後に簡単なミニレポートを作成する

一次選考

◆プレゼミナールで作成したレポートや志望理由書、活動報告書、外国語試験成績等を総合的に評価し一次選考を行う

◆生物学科は自主課題研究ポスター（A4判に縮小印刷）の提出を必須とする

二次選考

文系「図書館入試」

◆文教育学部（全ての受入学科）、生活科学部人間生活学科
１日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
２日目：グループ討論、面接

理系「実験室入試」

◆理学部数学科、物理学科、化学科、情報科学科
思考力や探究力等をみる専門性のある試験課題を課す
例：実験、実験演示や実験データをもとにして考察する/黒板などを使って考え方を説明する

◆理学部生物学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科
自主研究課題のポスター発表を課す（自主課題研究のポスター発表を中心とした、これまでの高校での取組を評価する試験）

平成28年度入試パンフレットより

http://www.ocha.ac.jp/news/h280126/h280126_2.pdf

- プレゼミナール
  ↓
- 一次選考
  ↓
- 二次選考

文系「図書館入試」

- １日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- ２日目：グループ討論、面接

平成27年度プレゼミナール

- 2015年8月「新フンボルト入試」の体験版としてプレゼミナールを実施
- その中の一つのメニューとして「図書館情報検索演習」を実施
- 「図書館情報検索演習」のプロセス

1　「課題の提示」
2　「情報探索レクチャー（図1）」
3　「レポート作成（情報探索→執筆）（図2,3）」
4　「グループディスカッション（図4）」

「探究力」や「情報リテラシー」と要素が重なっています

入試に関わった教員の感想
「たった1日で生徒がどんどん変わっていく！大変だけど、やりがいを感じる」

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」の様子

図1　情報探索レクチャー

図2　レポート作成（情報探索)

図3　レポート作成（執筆)

図4　グループディスカッション

平成27年度プレゼミナール

- 図書館スタッフが担当したこと:
  1. 各プロセスに最適な環境の整備
  2. 「情報探索レクチャー」

     参考：

     「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術

     http://hdl.handle.net/10083/59088
  3. 「レポート作成（情報探索→執筆）」のサポート

- 関係部署（入試推進室、AO入試室、入試課、情報基盤センター）と連携し、方針や内容、役割分担を検討
- 共通理解の一助として、国立大学図書館協会「高等教育のための情報リテラシー基準」（2015年6月）も活用

平成27年度プレゼミナール

- 重要なコンセプト：
  - 「受験の有無、合否に関わらず、参加者にお土産（大学においても、社会においても、必須の能力）を持ち帰ってほしい」　（by入試推進室長）
  - 「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
    →いかに実現するか？

- 実現方策：3つの方針
  1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
  2. 人的なサポート体制を整えること
  3. 場所は、図書館のラーニングコモンズのパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること

参考（レクチャーの内容から抜粋）

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

このコマの内容

お茶大図書館の使い方を解説するだけではなく汎用性を重視

1. 大学図書館ってどんなところ？（おさらい）
2. 課題の設定から論文作成まで（プロセスを知る）
3. 実践してみよう！（情報検索・入手のスキルを身につける）
   ① お茶大図書館で持っている本や雑誌
   OPACで検索 → 図書館内で探す
   ② お茶大図書館で使える電子的な情報
   朝日新聞データベース「聞蔵IIビジュアル」
   辞書・事典「JapanKnowledge」
   ③ 信頼できるウェブ情報
   統計資料を探す → 政府白書、統計など
   雑誌論文を探す → CiNii Articles
4. 著作権・引用のルールについて

さまざまなメディアがあり特徴がある

「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

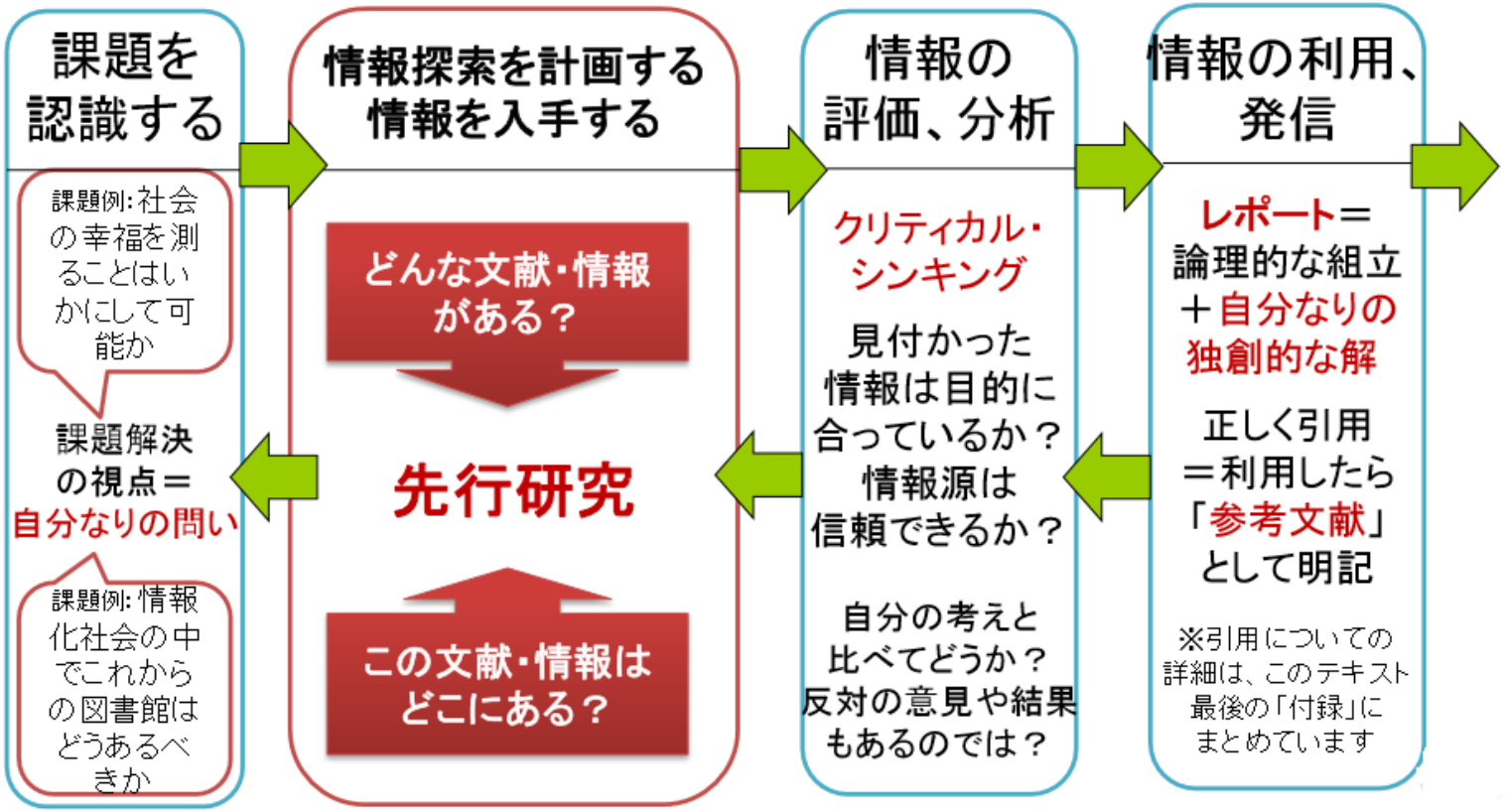
参考（レクチャーの内容から抜粋）

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

課題の設定から論文作成まで（プロセスを知る）

プロセスを重視

論文／レポートは、感想文や小論文と違い、自分の考えだけに基づいて書くのではなく、先行文献や客観的なデータを元に、自説を組み立てる必要があります。



「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 附属図書館

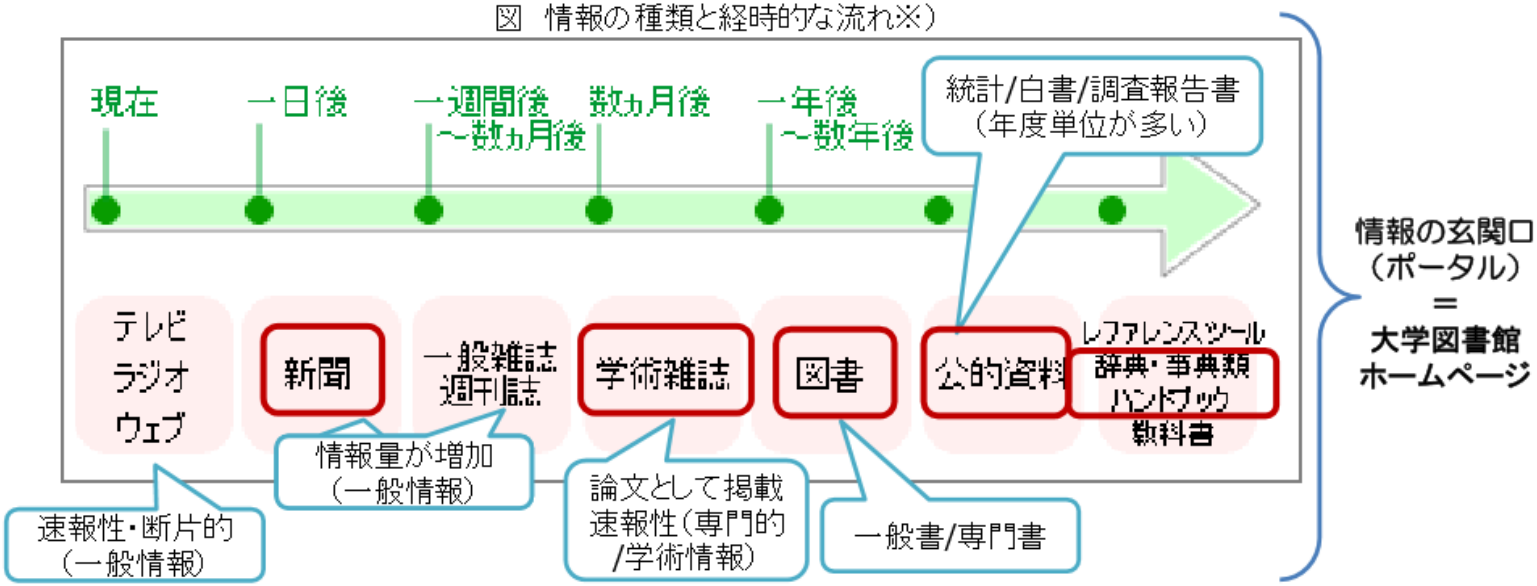
参考（レクチャーの内容から抜粋）

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

情報の生産と流通

●重要ポイント●
情報を効率的に調べるための戦略を立てるために、メディアの特徴、
情報がどのように生産され、流通しているのかを知っておく！

図　情報の種類と経時的な流れ※）



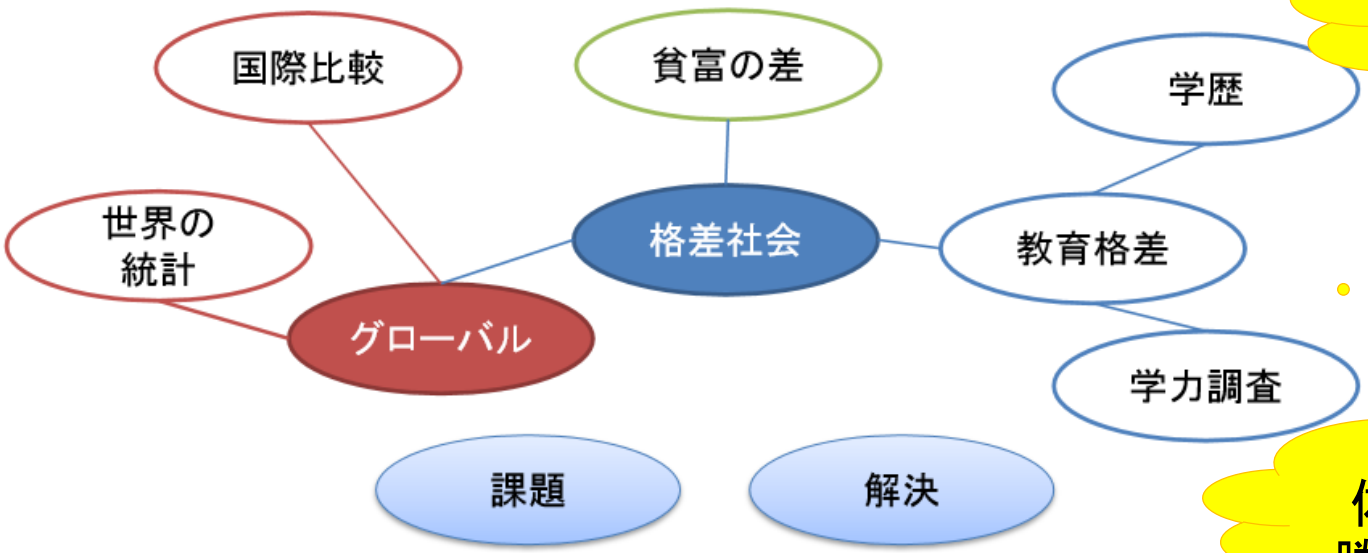
※）参考：慶応義塾大学日吉メディアセンター
KITE(Keio Interactive Tutorial on Information Education) 「情報の生産と流通」より
http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/classify/info-cycles/02.html（参照日：2016.3.15）

「持続可能な社会の探究Ⅰ」をより楽しむための大学図書館活用術
http://hdl.handle.net/10083/59088

参考（レクチャーの内容から抜粋）

イメージマップで キーワードを考えてみる（例）

●重要ポイント●
重要なキーワードから、思いつくキーワードを書いて関連付けてみる
＝自分なりの問いを作る



単純なキーワード
索では、同じ情報
集中してしまう。

「よーいドン！」の
体力・瞬発力だけの
勝負にならないように

※）参考：
図書館利用教育ハンドブック学校図書館（高等学校）版作業部会『問いをつくるスパイラル：考える ことから探求学習をはじめよう！』日本図書館協会、2011、p.37

平成27年度プレゼミナール

アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加（回収数：81名）

1. 「情報探索レクチャー」の理解度：「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度：「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」：「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」 0% 「有益でなかった」0%

   →これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる

4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書＋Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書（紙媒体）のみ」

   →学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた

「図書館入試」３つの背景

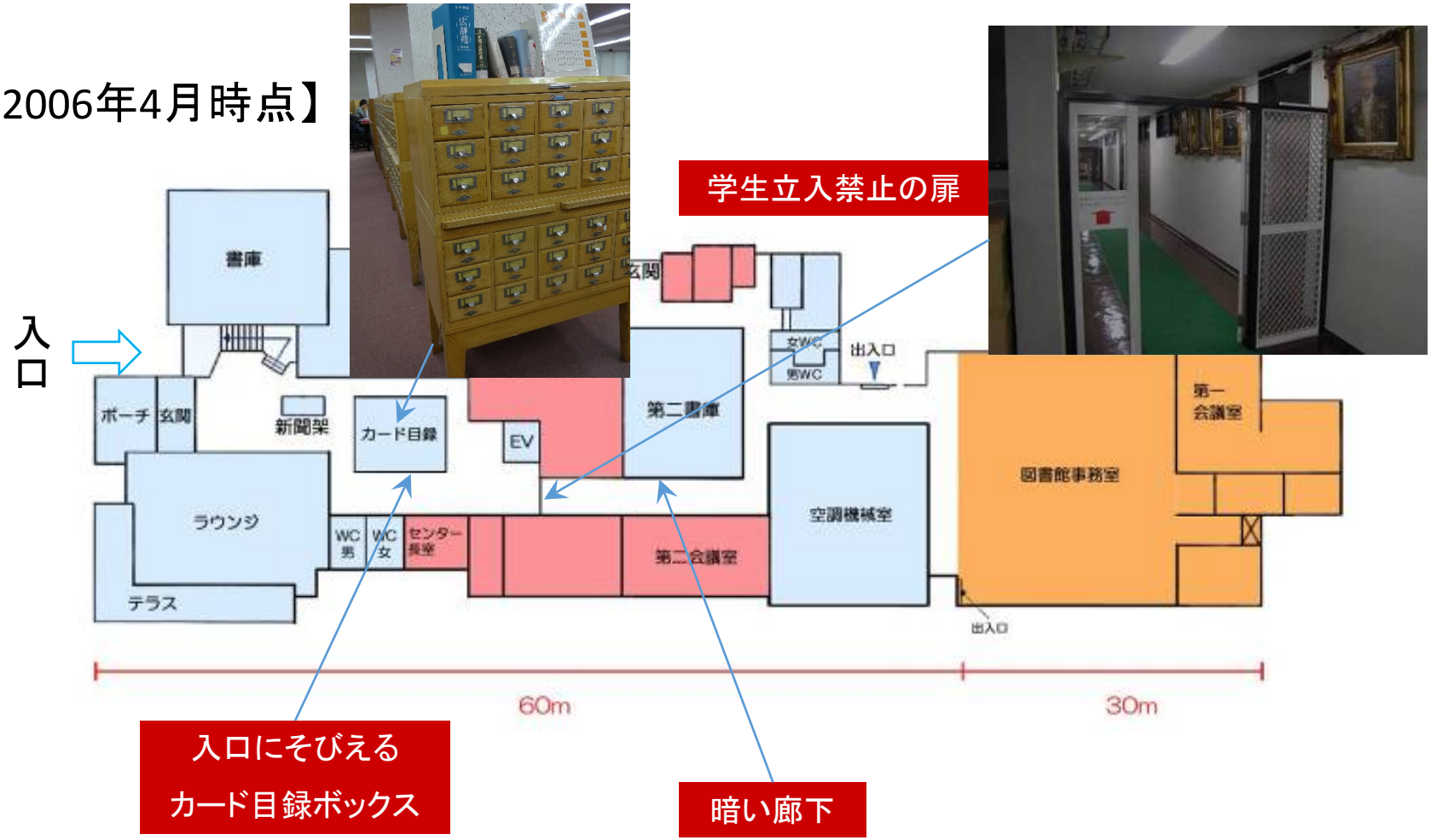
- そもそもなぜ、「図書館入試」だったのか？
- 「教職協働」「教員との信頼関係の構築が大切」とはよく言うけれど？

1. 学びの場づくり：2007年にラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた
2. 情報リテラシー教育：初年次教育の必修授業での講習会やクラス単位のオーダーメイド講習会を積極的に実施してきた
3. ピアによる学習支援：図書館内で行うTA（Teaching Assistant）相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアルした

教育・学習の「支援者」である学校図書館、
大学図書館は、「教え手」でも「学び手」でも
ない？・・・遠慮？限界？

１．学びの場づくり（改革前）

【2006年4月時点】

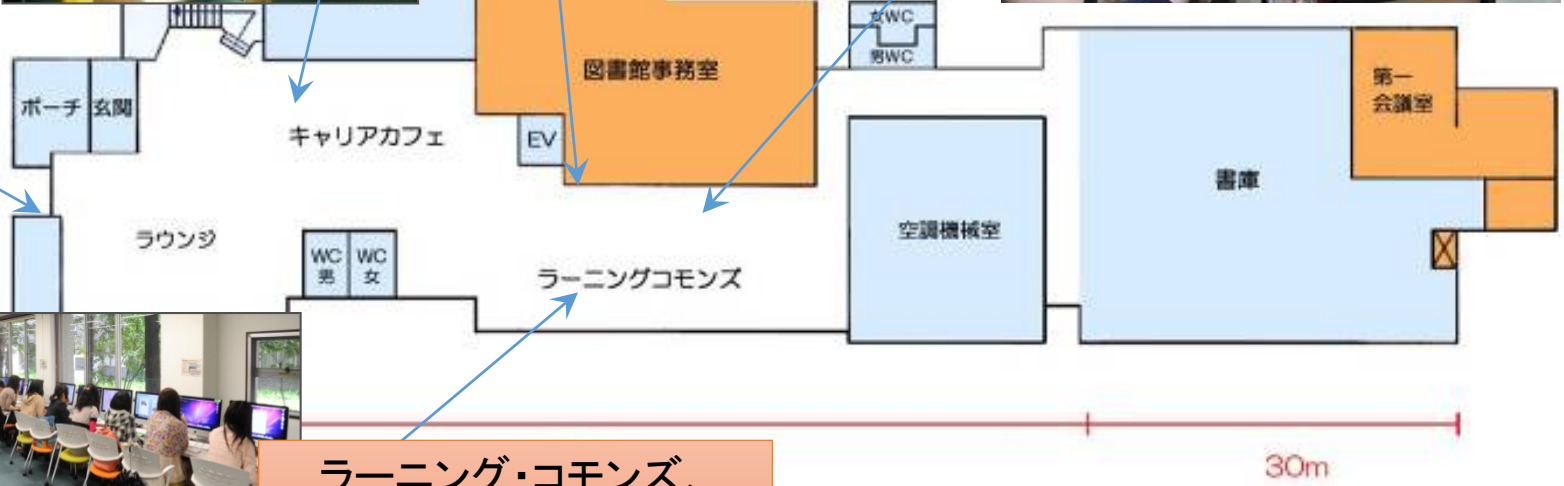


１．学びの場づくり（改革後）

【 2008年3月時点】

学生のスペースと
職員のスペースは
ガラスの間仕切り。
お互いが良く見える

図書館
の理念



ラーニング・コモンズ、
キャリアカフェを設置

「図書館入試」３つの背景

１．学びの場づくり（使われ方の例）

企業側：
大規模教室では見えない生のお茶大生が見える

大学／学生側：
日常的に行く図書館でやっているから、イベントの視認性高い

キャリアイベント＠図書館　平成26年度実績

回数（企業説明会、OG懇談会等）　88回
延べ参加学生数　3,591名
（内訳）　前期 10回　参加学生 596名、　後期 78回　参加学生2,995名

１．学びの場づくり（使われ方の例）

- 留学関連イベントの様子
（国際課･グローバル教育センターとの連携）

交換留学生の帰国報告会
＠１階キャリアカフェ
→大人数OK！
やっていることが、参加者以外
にも伝わる

留学体験者相談会／
留学カリキュラムデザイン相談
＠2階グローバルスタディーコーナー
→より詳しい相談が可能

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 第一期（2007～2008)
  - ・サービス担当常勤職員2名で細々と「論文検索講習会」を実施。
    - → テーマは「効率的な文献の探し方」（DBの利用を伸ばす目的も）
- 第二期（2009～2012)
  - ・課内プロジェクトグループとしてリテラシー教育に取り組むことに。
  - ・サービス担当常勤だけではなく、非常勤さんや他の担当もメンバーに加わり、「図書館を使いこなそう！」と名称も変更。
    - → DBの使い方だけではなく、図書館全体を学びに活かして欲しいという願いを込めた。
    - → メンバーが増えたことで内容も充実。
  - ・並行して、教員の依頼を受けて「授業内ガイダンス」を開始。
    - → 名称を「オーダーメイド講習会」に変更。

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

●第三期（2012～2014）

・「オーダーメイド講習会」依頼数が増加。リピーターも多数。

・教員から、初年次の必修授業にした方が良いとの提案が！

→　提案通りとはいかなかったが、1年生必修の情報処理関係の必修授業に組み込んで貰えることに！1コマまたは半コマで実施。

・しかし、オーダーメイド講習会の人気とは裏腹に、図書館主催講習会の参加人数は減少

→　仕事のスクラップ&ビルド：人気のRefWorks講習会のみ開催することに。

●第四期（2015～）

・従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」のうち、文系受験者向け「図書館入試」を実施することに決定。プレゼミナールや二次試験での「図書館情報探索演習」に全面協力。

・附属高校の「探究型授業」での講習会も担当。

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

「図書館入試」３つの背景

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

もっとできることがありそう、でもどこまでできるのだろう？

検索メインの講習会だったら自信を持って実施できる！

大学での学びに踏み込みたいけれど、先生はそこまで望んでいない…?

本当にこの内容で良い？

先生に聞いてみればいいのだけれど、どうやって話を持っていこう

そもそも自分たちがやっていることを見直したいけどちょっと怖い…

これまでの内容を大幅に変えるのも大変…

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 楽しく見直すチャンス到来！

「高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト2.3）」への意見を出すために、体系表を使って１年生向け講習会テキスを見直すとともに、ドラフトの評価もしてみよう！

・2014年8月7日（木） 10：00～11:30
・リテラシー教育グループ前期活動レビューの会
・リテラシー教育Ｇ６人＋研修で来ていた東京都公立学校教員2名
・グループワーク形式で実践してみた

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

- 情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。
- 高等教育の場で能動的学習（アクティブ・ラーニング）を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。
- アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。

→学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを6つに整理

1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf

高等教育のための情報リテラシー基準活用体系表

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	応用： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成・発表ができる	発展： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる
1．課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 （構成要素） 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。	□ 課題の意図を正しく理解できる。	□ 課題に沿ったテーマを設定できる。 □ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる。	□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる。 □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。
2．情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 （構成要素） 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。	□ 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 □ 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 □ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 □ 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。	□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 □ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 □ ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認することができる。 □ 各種施設（博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等）の特徴を説明できる。	□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 □ 信頼性の高い情報を選択できる。 □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる。
3．情報を入手する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。 （構成要素） 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報を取捨選択する。	□ 所属機関の図書館の蔵書検索ツール（OPAC）を利用し、指定された資料を検索できる。 □ 図書館における資料の配置・分類法を説明できる。 □ 与えられた情報源を検索できる。 □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。	□ 課題に応じてメディア（図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源）を選択し、情報を収集できる。 □ 文献検索の検索語（同意語・上位語・下位語）を工夫できる。 □ ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。 □ データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。 □ 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。 □ 情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。	□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。 □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。
4．情報を分析・評価し、整理・管理する 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する。 （構成要素） 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性、真正性などの点から批判的に分析・評価する。 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する。	□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。	□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる。 □ 資料リストを作成し、管理できる。	□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。
5．情報を批判的に検討し知識を再構造化する 行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する。 （構成要素） 5.1 情報を自らの知識と比較参照し、批判的に検討する。 5.2 新たな情報を自らの知識体系に組み込む。	□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる。	□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる。	□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる。 □ 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる。
6．情報を活用・発信し、プロセスを省察する。 行動指標⑥ 社会倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する。 （構成要素） 6.1 情報を利用する上で必要な法的・社会倫理的な知識を持つ。 6.2 情報を発信するために必要な ICT･コミュニケーションに関するスキルを持つ。 6.3 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい表現形式を選択する。 6.4 情報の典拠を明示し、適切に引用を行い、自分の主張を論理的に発信する。 6.5 最終的な成果物を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する。	□ レポートの一般的な体裁を説明できる。 □ 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。 □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる。 □ 引用と剽窃の違いを説明できる。 □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる。 □ 提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる。	□ 事実的・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる。 □ レポートや発表資料において図表・音声・画像を活用できる。 □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる。	□ 情報を意思決定・問題解決・実験・調査に活用できる。 □ 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性のモニタリングができる。 □ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる。 □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる。 □ 自分が発信した情報・論文を評価できる。

「図書館入試」３つの背景

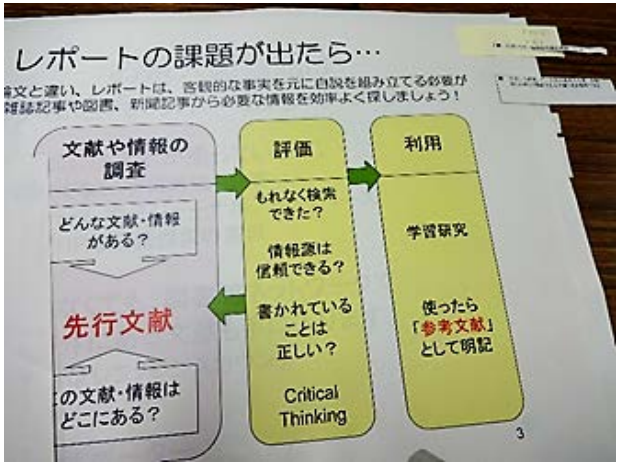
２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

①テキスト（ppt)を１枚ずつA3にプリント

②活用表の「初級」を切り取り、項目別に色分けしたものを数セット用意。

③どのスライドがどの項目に合致するか意見交換。合致する項目をテキストに貼る。

④すべてのページが終了したら、全体を見直してどの部分ができていたか、足りない分はどこかを検討。



研修に来ていた
高校の司書さん
も一緒に
ワーク！

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

２．情報リテラシー講習会（ニーズに応じた対応）

● 見直しの結果

・講習会でカバーできている内容を確認できた！
・足りない箇所も分かった。そんなに手間をかけずに修正できそう！
・スライドが意図する効果（目的）が明確になったので、説明に説得力が増しそう！
・複数人でレビューしたことで、より客観的に評価できた！

改善へのモチベーションUP　＆
これで良かったんだという自信

2015年度の新入生向け講習会のテキストに反映
※著作権に関するスライドを追加し、「引用」についての説明を強化

お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16　餌取直子さん発表資料より

３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）

- ラーニングアドバイザー（LA）の経費
  - ✓ 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成　−21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育−」

    →平成25年度で終了

- LAの中身
  - ✓ LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心

    →「ラーニング」アドバイザーと言えるの？

    →「アクティブ･ラーニング」の場になっているの？

- 情報リテラシー教育支援のあり方は？

新しい展開

- 新図書館構想に取り組むことに（平成25年6月）
  - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
  - サブグループ（空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成）を設置
  - メンバーは、教員4名、職員4名

- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに（11月）
  - 寄付事業
  - 一部局から全学へ

ピンチは
チャンス！

新しい展開

- 新図書館構想WG報告書を提出（平成26年2月）

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして：
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱（ビジョン）

（１）知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります

（２）創造的学びの場としての空間機能を提供します

（３）人類智が交差する場として人と人とのつながりを支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

アクティブ・ラーニング（能動的学習）
型の学びがサポートできること

お茶大アクティブ・ラーニング実践例

- LIDEE “Life Innovation by Design and Engineering Education” http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf

ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

✓チーム作業： 自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることを体験してもらうため、チームによる作業が基本

✓ワークショップ：結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う

✓現場調査や専門家の参加：机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

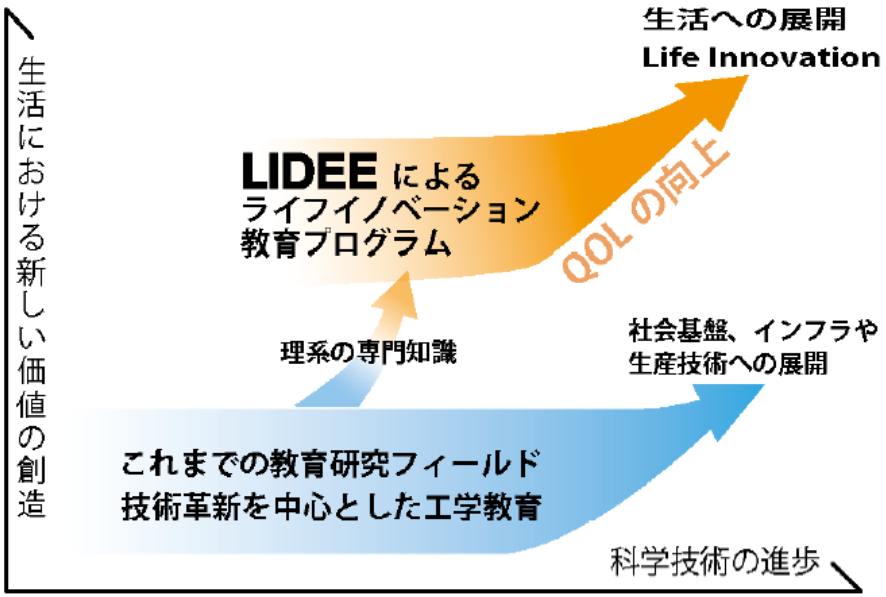
出典：松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』
平成25年9月10日　新図書館構想WG第2回打合せ資料

お茶大アクティブ・ラーニング実践例

- LIDEEの活動から見た求められる空間

✓ワークショップの場
✓発表・講評の場所
✓情報の加工の課題

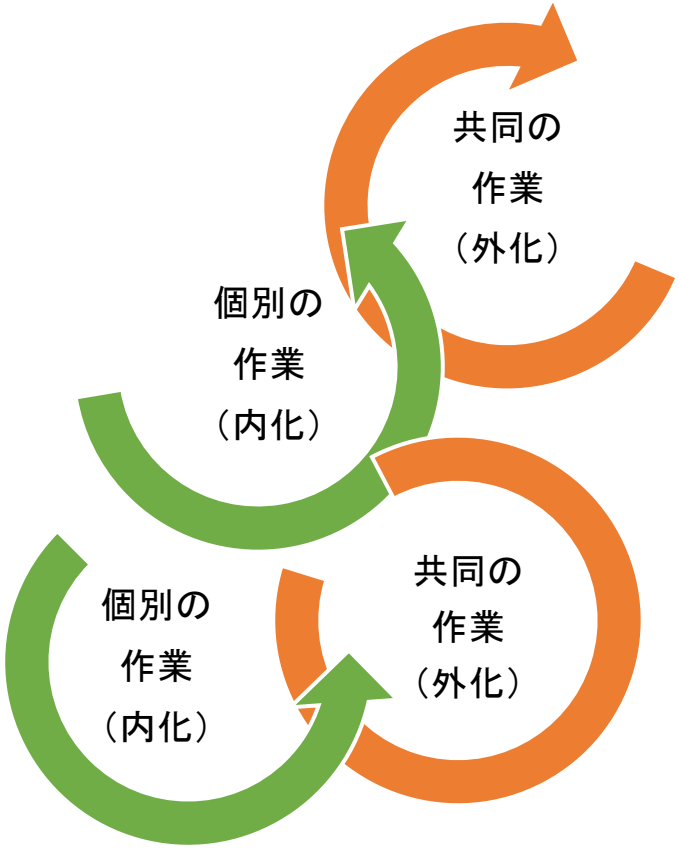
＋事前調査や
アイデア出しのス
キルも必要？



出典：松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』
平成25年9月10日　新図書館構想WG第2回打合せ資料
URL:　http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee.html

アクティブ・ラーニングって？

- 学修のプロセスは一方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない



- 更なるディスカッション
- 合意形成／成果発表

- 調べなおし
- 戦略の立て直し

- ディスカッション
- 拡散←→収斂（葛藤・軋轢）

- 下調べ／戦略

- 「問い」の設定

「行ったりきたり」のプロセスが大事

繰り返すことでスパイラルアップ

各プロセスをサポートする「人」が必要！

学習支援は大学内のどこで行われているのか

- 「学修」「学習」支援系の組織の業務内容を徹底調査した結果・・・
  - ✓ 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携はなされていない
  - ✓ 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている
    - ハード（建物）面だけではなくソフト（人的支援）面で展開する必要がある
    - ニッチなニーズの掘り起しができそう
    - 個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割を担える？
- 大学が目指す方向性に沿って
  - ✓ 学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること

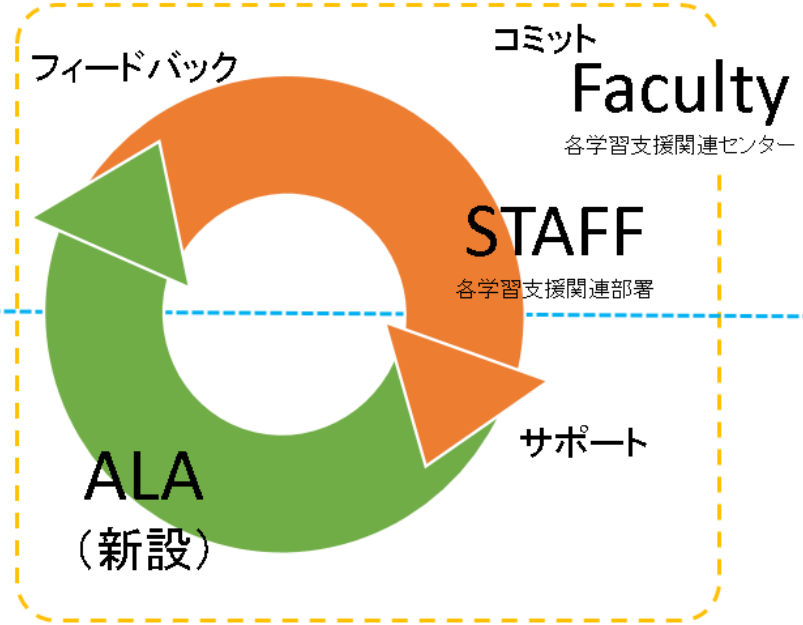
    →アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設

アカデミックラーニングアドバイザーの予算要求

図書館ラーニングコモンズ（LC）における学習/研究支援機能の強化　Part II （案）

取扱注意
2014/2/7
図書・情報チーム

	平成25年度まで	平成26年度から
研究支援	● 人員： ・LA（ﾗｰﾆﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ）=TA（一部AA） ● サポート内容： ・図書館開館中常駐 ・ICTｻﾎﾟｰﾄが主 ● 財源： ・特別経費「学士課程」	● 人員 ・教員/職員/ALA（ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾗｰﾆﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ）=TA ● サポート内容： ・コアタイムのみ ・学習支援/研究支援 （情報ﾘﾃﾗｼｰ教育支援：文献検索・管理・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ指導など 具体的な内容は要検討） ・ICTｻﾎﾟｰﾄ ● 財源： ・学内経費 (RF1名分の経費)
学習支援	LA	ALA（新設）



結果的に平成26年度～LALA（Library Academic Learning Adviser）を置けることに。

LALA（ Library Academic Learning Advisor ）広報資料より

LALA(ララ)とは？

- Library Academic Learning Adviserの略称。
- 教員、学外の専門家、図書館員からアカデミックスキルズに関するトレーニングを受けた大学院生です。（トレーニングプログラム内容：図書館情報探索講習会、論文の技法、ライティング支援）
- 2014年度メンバーの専攻（全10名）
  比較社会専攻　:5名（後期：5名、前期：0名）
  理学専攻　:2名（後期：1名、前期：1名）
  ジェンダー専攻　:3名（後期：2名、前期：1名）

LALAの役割は？

- 学生が自ら考え自ら調べることを支援します。
- より専門的な内容の相談については、教員や他の窓口へと適切にナビゲートし、学生と教員の橋渡しをします。

LALAデスクとは？

学生が大学院生のサポートを受けられる相談デスクです。

- 文献の探し方、レポートの書き方についての相談を受け付けています。
- PC、プリンターの質問にも対応。
- サービス時間（土日祝日を除く）
  授業期間中⇒9:00～18:00、長期休暇中⇒10:00～16:00

ラーニング・コモンズの一角にあります

LALAデスク 相談風景

授業外の学習時間がさらに充実！

文献の探し方、レポート作成など

ぜひ、学生に利用をおすすめください！

学生の声

質問しやすい雰囲気で、また活用させていただきたいと思いました。

困ったときに優しく教えていただき、感謝しています。

LALAの声

トレーニングプログラムや学生との対話が自分の学びにもなっています。

大学の専門分野で学んだことなどを生かしたいです。LALA活動が本格的なアカデミック的な支援になればよいと思っています。

LALA平成26年度実績と平成27年度体制

- 体制：LALAデスク1コマ1名

比較社会専攻　：5名（後期：5名、前期：0名）
理学専攻　　：3名（後期：1名、前期：2名）
ジェンダー専攻：3名（後期：2名、前期：1名）
計：11名（応募13名）※）

- 授業期間中のコマ

	①9:00～12:00	②12:00～15:00	③15:00～18:00
月	理学／後期	比較社会／後期	ジェ／前期
火	比較社会／後期	理学／前期	比較社会／後期
水	ジェ／後期	理学／前期	比較社会／後期
木	比較社会／後期	ジェ／後期	理学／後期
金	ジェ／後期	比較社会／後期	理学／前期

- 授業期間外のコマ

	④10:00～13:00	⑤13:00～16:00
月	ジェ／後期	比較社会／後期
火	比較社会／後期	理学／前期
水	比較社会／後期	ジェ／前期
木	ジェ／後期	理学／後期
金	理学／前期	ジェ／後期

※）1名留学したため、後期から10名体制

- LALAデスク開設日／質問件数（忘れ物対応等を除く）

授業期間中：162日、2,831件　1日平均17.5件
授業期間外：28日、　96件　1日平均 3.4件

- 時間帯ごとの質問の割合

授業期間中：①28.9%　②37.7%　③33.5%
授業期間外：④50%　⑤ 50%

→いずれの時間帯にも同程度の質問が来ているが、授業期間外に関しては絶対数が少なく、12:00～15:00の間に質問が集中

- 平成25年度との比較（授業期間中1日3時間減）

質問数：月平均で5割増し
平成25年（ 7ヶ月間：9月-3月）：1,251件（179件/月）
平成26年（10ヶ月間：4月-1月）：2,831件（283件/月）

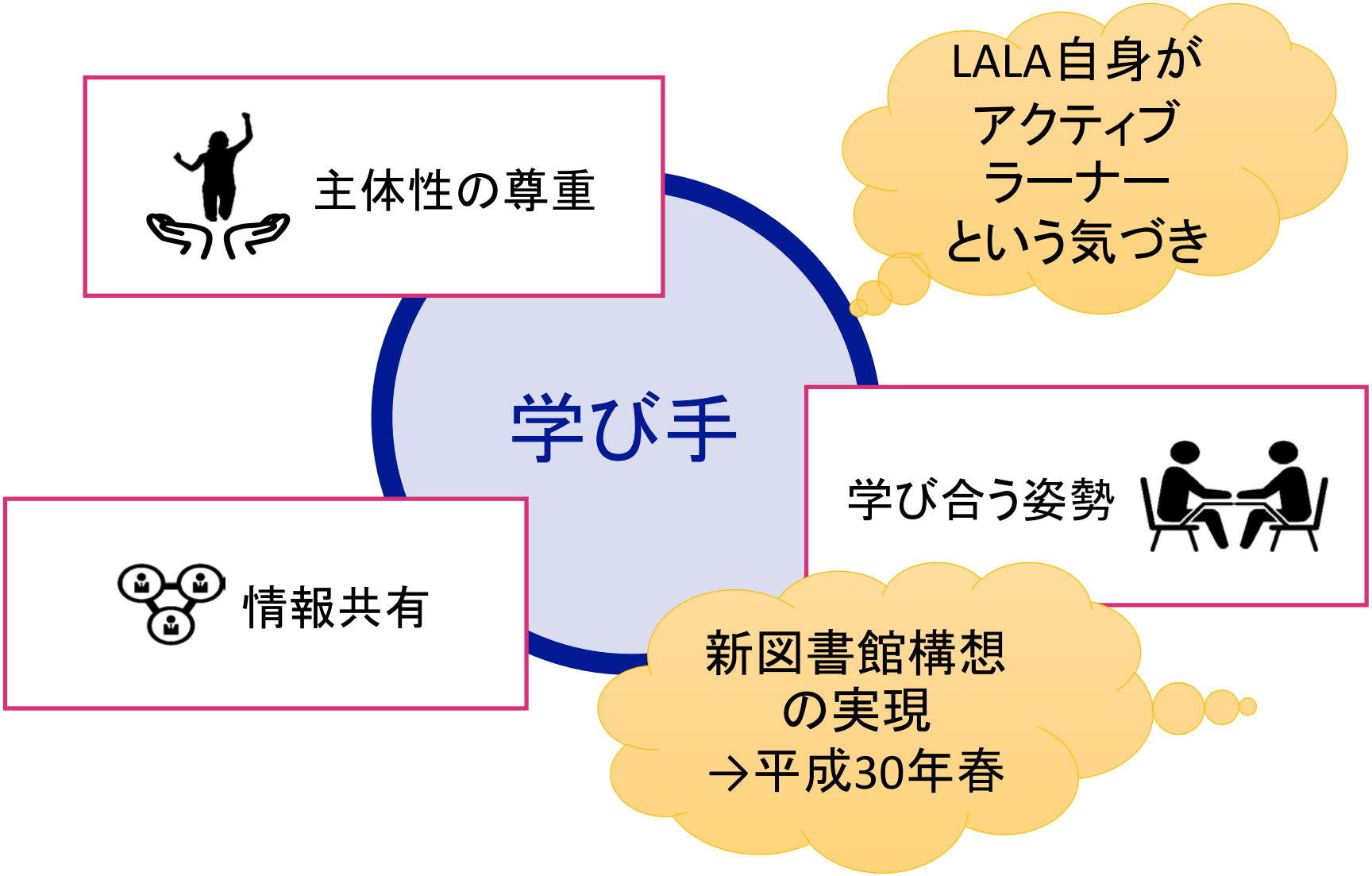
アカデミックスキルズ※）に関する質問数：月平均で倍増
平成25年（ 7ヶ月間：9月-3月）：35件
平成26年（10ヶ月間：4月-1月）：98件

※）レポート／論文の書き方、授業の課題、情報検索、図書館案内

・平成27年度：大学院生TA　7名（継続3＋新規4）、RF　1名でローテーション

「図書館入試」３つの背景

３．ピアによる学習支援（LAからLALAへ）



LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻　矢野智子さん発表資料
活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット（2016.11.10）

「図書館入試」３つの背景：まとめ

「図書館入試」の発想の背景にあったのは？

①学びの場づくり：

ラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた

単なる空間ではなく、部署を超えた協働の場として活用

「教職協働」「学生協働」の小さな成功体験を

②情報リテラシー教育：

初年次教育の必修授業での講習会やクラス単位のオーダーメイド講習会を積極的に実施してきた

入試担当の先生もオーダーメイド講習会を活用

積み重ねた結果として

③ピアによる学習支援：

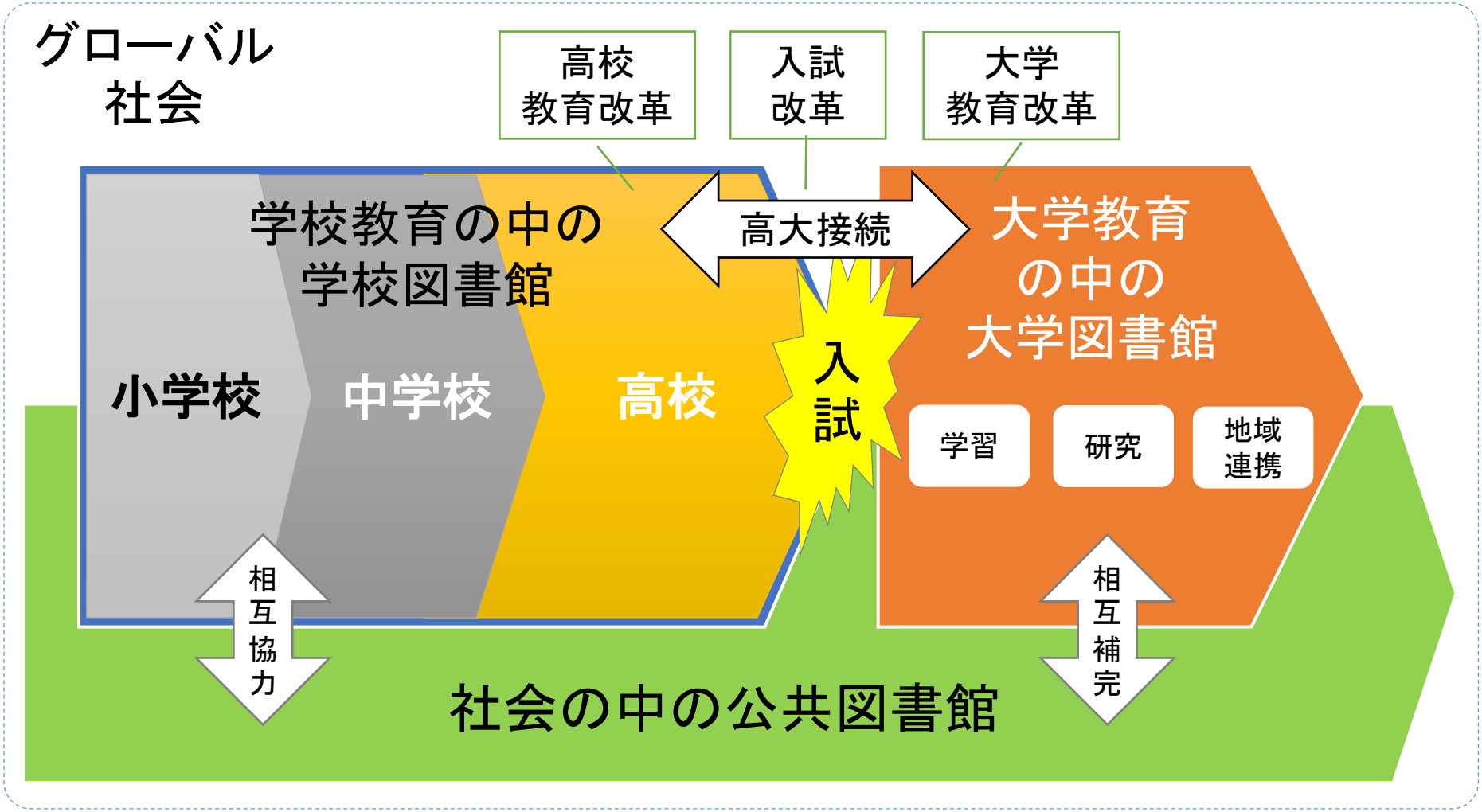
図書館内で行うTA（Teaching Assistant）相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA(Learning Adviser)を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA(Library Academic Learning Adviser)にリニューアル

学び手の視点と力をサービスに活用

「教員との信頼関係」が徐々に構築できた？

教育・学習の「支援者」である学校図書館、大学図書館は、「教え手」でも「学び手」でもある、という発想の転換

各ライフステージで
情報リテラシーを身につけられる場＝図書館



構成と時間配分（目安）

- 13:30~13:40　自己紹介・趣旨説明
- 13:40~13:50　アイスブレーキング

Hop

研修の始まりは緊張しがち→アイスブレーキングでリラックス
反転授業的に「読めばわかることを聴く」のではなく、顔を合わせているからこそできることをしましょう！

- 13:50~14:30　大学図書館の事例報告
「探究力」と「高大接続」：大学の立場から

Step

- 14:30~15:10　高校図書館の事例体験
「実践！実践！探究ワーク
～高校図書館からできること～」

Jump

- 15:10~15:30　全体討議・質疑応答

県立長野図書館の朝倉さんにバトンタッチ！

まとめ：今後に向けて

- 図書館の外側から発想する
  - ✓ 「図書館が」何をするべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない
    - 「ウチの」生徒は、先生は、何を求めているんだろう？
    - 学校は、社会は、何を求めているんだろう？
    - その中で「ウチの」図書館だからこそできることは？

ピンチは
チャンス！

- 自分たちも含め、課題解決のリソースになる
  - ✓ 新しいことをしようとする人は結構孤独
    - 図書館員自身が、課題解決に導くためのリソースになれる
    - あなたの周りに困っている人はいませんか？
    - 話せる「人」をつくることが、第一歩
- 理想・構想を描きつつ身近な一歩を踏み出す
  - ✓ 正しい答えを誰かが知っているわけではない
    - 答えは一つではない
    - 初めから完璧でなくてもいい
    - 最初の一歩をいかに踏み出すか

ヒントは外にある
答えは中にある